

出生数、8年連続北播の市で最下位について 一般質問



植田 通孝 議員
(自民の風・誠真会)

問 厚生労働省人口動態統計によると、加西市の出生数は北播磨5市の中で8年連続最下位です。8年間(H20.1～H27.12)の出生総数は、加西市2,373人、三木市4,211人、小野市3,994人、西脇市2,644人、加東市2,939人となっており、相当の差が生じています。

H27年の兵庫県下の出生数は4万4,706人で、神戸市の12,140人から市川町の67人までさまざまであり、加西市は287人(41市町中で25番目)、三木市は481

人(15番目)、小野市は401人(17番目)、西脇市は304人(22番目)、加東市は368人(18番目)となっています。

そして、5年間(H23.1～H27.12)の自然増減総数は、加西市1,234人減、三木市1,569人減、小野市386人減、西脇市999人減、加東市は116人の微減です。

また、5年間(H23.1～H27.12)の社会増減総数は、加西市1,341人減、三木市1,532人減、小野市774人減、西脇市1,106人減、加東市は96人の微減です。

以上により、各市の5年間の人口増減総数は、加西市2,575人減、三木市3,101人減、小野市1,160人減、西脇市2,105人減、加東市は212人の微減となっています。

そこで、北播磨地域の5市の中で3番目の人口をキープしている加西市の出生数は、なぜ8年

間も連続して最下位なのか、その要因についてお尋ねしたい。

答 H21年度には少子化担当、H24年度には人口増政策課を設置し、積極的に取り組んできましたが、依然として厳しい状況となっています。

要因としては、合計特殊出生率の母数となる15歳から49歳までの女性人口が少なく、その未婚率が高いことが考えられます。

また、H22年国勢調査結果によると、近隣市では団塊ジュニアの世代が突出して多くなっているのに対して、加西市ではそうっていないことも、影響しているものと考えられます。

出生数をふやすために、まずは若い世代や女性の転入を促進しなければ、安定的な人口推移には至らないものと考えています。

介護予防・日常生活支援総合事業について 一般質問



井上 芳弘 議員
(日本共産党)

問 介護予防・日常生活支援総合事業(以下、総合事業)の現状について。

答 平成28年10月より要支援1、2の方に対する「介護予防訪問介護」及び「介護予防通所介護」を総合事業として、現行の介護に相当する、訪問型サービス・通所型サービスに移行していきます。

移行のタイミングは、10月以降に新たに要支援の認定を受けた方と、更新により再度要支援の認定を受けた方が、訪問型サービス・通所型サービスを利用するときとなります。要支援の認定期間は1

年であるため、1年かけて移行することになります。

問 総合事業に伴って設定されている、緩和型サービスや、住民参加型のサービスの今後について。

答 総合事業は、まず現行の相当サービスを置き換える形で開始しますが、その他の多様なサービスについて、今後、協議体を中心に議論していきたいと考えています。

また、将来における多様なサービスとその担い手づくりを念頭に、生活介護サポーター養成講座、介護ボランティアポイント制度などに取り組んでいるところです。

問 訪問型・通所型サービスの事業所への給付単価は維持されるのか。

答 現行と同じ単価で実施し、介護事業所への大きな影響

はないと考えていますが、基準緩和型のサービスについては、地域のコンセンサスに配慮し、近隣の事例等を参考にしながら検討していきたいと考えています。

問 同じ予算措置でやっていく事業が、緩和型に次々と置き換えられる可能性はないのか。

答 利用者にとって、どのサービスが最も必要か見極めていかねばなりません。ただ単純に負担の軽いほうへといった判断にはならないものと認識しています。

■その他の質問項目

- ・ 公共施設総合管理計画について
- ・ 国民健康保険制度の運営について
- ・ TPP協定の国会批准について
- ・ 地域医療構想について